

第5節 光構内の立会調査

教育学部附属光中学校外灯改修に伴う立会調査

調査地区 教育学部附属光中学校構内

調査期間 昭和60年11月15日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約1 m²

調査結果 教育学部附属光小・中学校構内は「御手洗遺跡」として周知されており、特に、今回の工事地域に近い中学校体育館敷地部分では縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器等が遺物包含層から出土している。

工事内容は外灯改修に伴いキャンパス北東部の2ヵ所について、体育館北側部分では幅約30cm、長さ約10m、グラウンド北縁中央部分では同じく幅約30cm、長さ約16mの範囲を現地表面から約50cm掘削して配管を埋設するものである。調査は前者に幅約0.3m、長さ約0.8m、後者に幅約0.3m、長さ約1.5mの手掘りによるトレンチを設定して行なった。

その結果、両トレンチとも遺物包含層、地山は検出されず、工事掘削深度内は攪乱土の堆積であった。しかし、前者では現地表下約10cmに堆積する暗褐色土から中世の土師器一点が出土した。(河村)

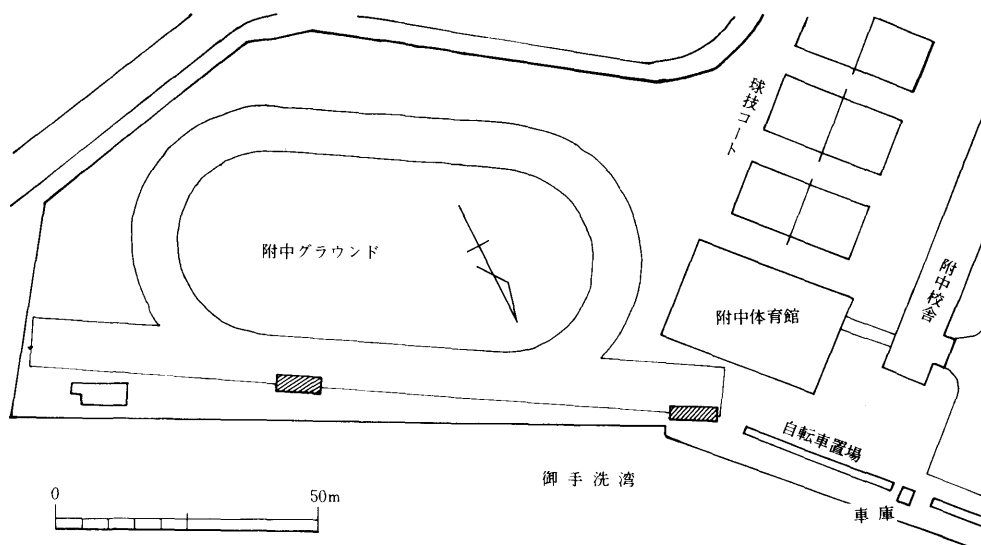


Fig. 51 調査区位置図